



天敵卵寄生蜂を利用したダイズ新害虫 ミナミアオカメムシの防除技術の開発

開発の背景・ニーズ

新発生害虫ミナミアオカメムシに対しては、発生予察や耕種的防除が行われておらず、定期的な農薬散布による防除に頼っています。卵寄生蜂（カメムシの卵に寄生する蜂）などの天敵が発見されていますが、これらに対する農薬の影響が知られておらず、通常の農薬散布では天敵も同時に駆除されてしまいます。そこで、これらの卵寄生蜂の生態、薬剤耐性等を明らかにし、総合的防除技術を開発することが求められていました。

成果の内容

ミナミアオカメムシの生息拡大と共に、天敵である卵寄生蜂の生息も拡大していることが判りました。さらに、殺虫剤「エチプロール（キラップ）」や「クロチアニジン（ダントツ）」は、寄生蜂には影響が小さく、ミナミアオカメムシには効果の高いことを明らかにしました。

また、指標作物や予察灯を用いたミナミアオカメムシの発生予察手法を開発しました。

これらの知見をまとめ、天敵を活用した農薬使用技術と発生予察を組み合わせた総合的防除技術を開発しました。



ミナミアオカメムシ

2008年、西三河南部で初確認



Trissolcus mitsukurii ♀



Trissolcus basalis ♀

有望な卵寄生蜂2種を発見(2010年)

ミナミアオカメムシの生息域拡大とともに卵寄生蜂も拡大

総合的防除技術

指標作物や予察灯を用いたミナミアオカメムシの発生予察



天敵寄生蜂によるミナミアオカメムシの発生密度抑制

+

天敵には影響が小さく、ミナミアオカメムシには効果の高い農薬の利用
(エチプロール、クロチアニジン)

愛知県農業への貢献

発生予察及び天敵により効果的、効率的なミナミアオカメムシ防除を行うことができ、ダイズの安定生産に貢献することができます。

【本研究の一部は、名古屋大学との協定研究及び「発生予察事業」で実施しました。】

環境基盤研究部